

「研究」と「起業」を追求した先に 描く今より少し良い未来

配信日:2021年9月2日

テクノロジーを用いて社会課題解決に取り組むつくば市の起業希望者やスタートアップを対象とし、事業創出・事業拡大を支援する「つくばSTARTUP INCUBATION PROGRAM 2021」。

今年度のプログラム実施を前に、平成30年度に本プログラムへご参加いただいたPLIMES株式会社 代表取締役副社長 下柿元 智也氏に、プログラムへの参加に至った経緯、プログラムでの学びや成果、その後の取り組みについてお話を伺いました。

<インタビュー対象者のご紹介>

下柿元 智也氏(以後、下柿元)
PLIMES株式会社 代表取締役副社長

経歴
筑波大学大学院修了。筑波大学研究員を経て現在に至る。博士(工学)・修士(医科学)



将来の生活をよりよいものにしたい

—— 下柿元さんの行っている研究や事業について教えてください。

下柿元:もともと筑波大学の人工知能研究室で人の生体情報の計測とそのデータ解析(今でいうIoTデバイス開発とそのデータ解析)をして、さらに、筑波大学大学附属病院をフィールドとして医療への応用の研究を行っていました。結果として、工学の博士号と医科学の修士号を修め、現在はPLIMES株式会社(以下、PLIMES)で代表取締役副社長を務めております。PLIMESでは、パートナー事業者とともに「嚥下(飲み込み)計測技術」の社会実装を目指しています。

取り組んでいる嚥下(飲み込み)に関して、摂食嚥下障害に起因する誤嚥性肺炎は、我が国の死因の6位となっており、年間約4万人の死者数が出ている社会問題(※1)です。この領域は様々な方が関わっていますが、デジタル化が遅れていると感じています。今はリアルな病院内の食事中の「ゴックン」だったり「ゴホゴホ」という食事に関わるデータをしっかり記録するデバイスの開発、それに意味を与える統計解析、機械学習技術の開発をしています。

私自身も研究員として研究開発に取り組みながら、現場の方々への問題解決のためのサービスの考案、資本政策や資金調達等を行っています。他にもセールスの社内システムを組むことや、医療機器系のドキュメンテーション作成も行います。

(※1:厚生労働省発表「令和元年(2019) 人口動態統計月報年計(概数)」)

— 下柿元さんがプログラムへの応募を決意した背景を教えてください。

下柿元:基礎的な研究課題を解決していく重要性は理解しつつも、自分がしている研究で世の中が改善していくのか、と常に自問自答していました。嚥下は医療・介護でも問題とされていますし、なにより将来の自分たちの生活をより良くしたいという気持ちも相まって、研究者としてのマインドセットを持つつ、研究の事業化を共同創業者のPLIMES代表取締役社長 兼 筑波大学システム情報系教授の鈴木と検討していました。

研究の事業化に向けて、筑波大学内の起業家育成プログラム(EDGE-NEXT)、創業のための実用化研究予算(JST START)の採択などで事業化について具体的に考え、取り組む機会を頂きました。ただ実際に参加しても、アクセラレーションとは何か、一体どのようなことを提供してくれる団体か、という疑問を残しながら活動していました。

同時期に「スタートアップアクセラレーションつくば(現つくばSTARTUP INCUBATION PROGRAM 2021)をやるので、ぜひ参加してください」とご案内を何度も受け、プログラムに申し込み、支援を受けました。正直なところ何をしてもらえるのか、当初はそれほど期待をせずに申し込みた記憶があります。

プログラムに参加して拡がった世界

— プログラムでは実際にどのようなことをしたのでしょうか？

下柿元:プログラム中はいろいろなメンターの方に自分がどのようなビジネスができるのかということを短時間でピッチを行い、伝える練習をしました。ピッチをやる中で、「面白いことやってるよね。」「いいね！」という反応をもらえるのは、モチベーションアップにも繋がり、とても有り難かったです。

また、メンターの方以外にも士業の方々と私たちのビジネスに関して、様々な意見交換をさせていただきました。そこで、研究だけに閉じてる世界に私は生きていないこと、色々な部分で経済が回っている。私は研究活動をしているけども、周りには見えない部分で、司法書士や弁護士の先生がいたり、商品を営業して売ってくれる人がいたりして、世の中には回っている。そして、世の中にはお金と信頼が絡まり合っているということを、改めて認識させられました。

今思い返すと、プログラムに参加していた当時は、この技術でどう収益を得る、誰に何を届ければいいのか、という根幹の解像度が上がってこなかつたため、迷いがあった時期でした。また、人と信頼関係を結んでのネットワーキングの重要性が理解できていなかつたですし、思考が凝り固まっていたのかもしれません。

—— プログラムに参加されて、下柿元さん個人に変化はありましたか？

下柿元：とあるメンターの方に言われた言葉で、心に残っている言葉があります。「つくばの人は面白いけど、人に頼ることが下手だよね」と言われました。そこで初めて私は人に頼るのが下手なんだということを認識することができ、強く意識しました。

もちろんビジネスですから、収益構造は大切ですが、もし本当にいち研究者がチャレンジしようとなつたときにはどういう事業をするのかではなくて、変えたい世界はどんな世界で、誰と共に歩むべきなのか、を把握する必要がある。誰に何を頼ればいいのか、組むべきなのかという視点を得たのは大きな変化です。

メンターの方からアドバイスを頂いてから人に頼ろう、頼られた時に自分も応えられるようにしようというメンタルができたと思います。持ちつ持たれつの信頼関係がコミュニティの根幹で、その中に入らせてもらったんだということを再確認して、行動として変えるように努力しました。

例えば、プログラムの運営の方は「何でも聞いてください」っておっしゃってくださつたので、わたしの場合は、セミナー中でもわからない部分があつた場合には、登壇者の方の話を止めてお話を伺つていました。意識するだけでなく、行動に移したということが大事だったと思っています。

—— プログラムに参加されての学びを教えてください

下柿元：起業することは大規模な研究を行うことと変わらないと考えるようになりました。研究員時代は、工学の研究だと10人規模の被験者の方に協力いただき、成果を導き、私たちの研究成果の証明をすることが重要でした。しかし、起業してからは、実社会では最低でも一万人に届けないとわからないことが多いと思っています。たくさんの方へ届けるために、資金調達をしながら、私たちの研究成果を実装したサービスを広げていき、顧客から得られたデータから、研究精度を上げていくことができています。私は、事業を伸ばすことも研究開発することと同じように私のなりたい姿だったのだと気付くことができました。

プログラムに参加してより会社の存在意義、実現したい社会や未来を描くことができるかということにフォーカスする必要があると考えました。何が答えかというのは、それぞれが考え、答えを出す必要があります。会社そのものに正解はなく、決めたその方向性に対してどう行動を変えていくかが大切だということを立ち返ることができました。



– 嘸下計測のためのAI/IoT機器「GOKURI」着用イメージ –

—— プログラムの評価はいかがだったでしょうか？

プログラムを受けた後の今、「人脈はその時点で繋がらなくても未来に繋がる」ことを実感しています。プログラムが終わり、数年経ちますが、そこで出会った方々は今では欠かすことのできないビジネスパートナーです。私たちは運営側の熱意によって参加しましたが、経緯はどうであれ、参加できて、多くの学びと友人を得ることができました。参加して本当に良かったです。

—— 最後に、本プログラム参加を検討している方へメッセージをお願いします。

研究組織にいると、外部資金だったり組織のペースになってしまいますが、民間の会社、特にスタートアップではお金が尽きるデッドラインが決まっています。さらに責任も負うことになるので、どうにかして形にしなくては、意味あるものにしなくてはという部分に火がつきます。スタートアップになったことで、研究だけを行っていた時より格段にスピード感が上がった実感はあります。会社を作っていなかつたら、思いつかないようなアイデアで特許を取ることができますし、地道ながら嘷下という業界の成長に寄与できていると感じています。

結果的に、やるかやらないかの二択です。起業したいと思っているが、自分にはまだ足りない部分があるからという理由で迷っている人ほどプログラムに参加してみるのがいいと思います。「足りないと思ってる部分を次回以降で活かせればいい」というような気持ちでぜひ参加してみてください。足りないものを見つけるために参加するという判断でもいいと思います。

最後に

今回はPLIMES株式会社 下柿元 智也氏に、プログラムに至った経緯やプログラムに参加してみて得られたこと、プログラムに参加したその後の話を伺いました。

つくばSTARTUP INCUBATION PROGRAM 2021では、起業家の方だけではなく、起業を視野に入れている研究者の方への支援を行っています。公募の詳しい情報やプログラム内容の詳細の内容につきましては「つくば STARTUP INCUBATION PROGRAM 2021」概要をご覧ください。

「つくば STARTUP INCUBATION PROGRAM 2021」概要

■名称:つくば STARTUP INCUBATION PROGRAM 2021(つくばスタートアップインキュベーションプログラム2021)

特設サイト:<https://tsukuba.s-incubation.jp>

■募集テーマ:

- ・ライフサイエンス
- ・ロボット
- ・エネルギー
- ・ナノテクノロジー
- ・物質/材料
- ・情報サービス
- ・環境
- ・宇宙
- ・AR/VR/MR

■支援対象者:

- ・大学や研究機関で技術開発に従事し、起業・事業化を志している研究者
- ・設立3年以内のディープテックスタートアップ

■応募資格:

- ・つくば市内に事業所を置く法人または令和4年(2022年)3月31日までに市内に事業所を設置する予定の法人もしくは個人であること
- ・事業化のための技術シーズを保有していること
- ・法人の場合、設立後概ね3年以内であること

■参加メリット:

- ・メンタリング:
事業アイデアのブラッシュアップや事業計画策定、実証実験・PoC検証、ピッチ資料作成の支援
- ・経営ノウハウ:
事業開発や顧客ニーズ検証等のレクチャーにより体系的な経営ノウハウ・フレームワークの提供
- ・人材マッチング:

・起業・事業化に必要なチーム組成についてのアドバイスやマッチング機会の提供

・連携ネットワーク:

起業・事業化に向けたパートナー企業候補や投資家とのネットワーク支援

・出資検討:

サムライインキュベート運営ファンドからシード出資検討機会の提供

・オフィス提供:

プログラム期間中、つくばスタートアップパークのコワーキングスペースを無料で使用可能

■今後のスケジュール(予定):

日程	内容
2021年8月17日(火)	募集開始
2021年9月17日(金)	応募締切
2021年9月下旬	一次審査:書類
2021年10月上旬	二次審査:面談
2021年10月中旬	結果通知
2021年10月下旬	キックオフ
2022年3月上旬	事業成果報告会(DemoDay)

※変更となる可能性もありますのであらかじめご了承ください。最新情報は特設サイトにてお知らせいたします。